

令和6年 新年の挨拶

水産局長 高橋 健二

新年あけましておめでとうございます

令和6年が組合員の皆様とそのご家族にとって素晴らしい一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。また、旧年中は組合の活動に深いご理解と多大なご協力を賜りましたこと、衷心よりお礼申し上げます。

令和5年は、新型コロナウイルス感染症対策の緩和により水産物の需給が回復した一方で、昨年から続くロシアのウクライナ侵攻等による燃料油価格や漁業資材の高騰、気候変動による漁場形成や漁獲量の変化、ALPS処理水放出に伴う外国の不当な禁輸措置などが水産業のリスクとして顕在化し、コロナ禍からの脱却は道半ばの状況です。また、国内の社会情勢から令和5年を振り返りますと、経済状態や国民の賃金水準から政策金利の引き上げに踏み切れないため、円安と物価上昇が進行し、実質賃金が19カ月連続でマイナスになるなど労働者の生活がますます厳しくなった一年でもありました。

こうした情勢を鑑み、令和6年度の水産部門労働協約改定交渉では、物価上昇に対応した賃上げを目指すとともに不安定な漁船の賃金体系の改善など、水産部門の労働条件・労働環境を総合的に改善・向上すべく全力で交渉に取り組んでまいります。また、水産部門は、漁獲量や魚価の変化によって賃金が変動する賃金体系が主体の部門なため、直接的な労働条件・労働環境の改善・向上以外の取り組みも重要となっています。具体的には、安全で生産性の高い漁船への代替建造の促進、日本漁船の漁業生産量を拡大するための施策の創設、魚価や燃料油費などの価格の大幅な変動を緩和する施策の継続などを政府に対して求めてまいります。

その他、遠洋漁業を中心に漁船漁業では船員の確保が困難となっておりますので、次世代を担う日本人若年後継者の確保・育成に取り組んでいかなければなりません。そのため、官学労使で協力している漁船乗組員確保養成プロジェクト、水産高校での漁業ガイダンス、小学生等を対象とした地引網体験など後継者確保・育成に資する取り組みを展開してまいります。

今年におきましても組合の諸活動へのご理解・ご協力をお願い申し上げますとともに、組合員の皆様とそのご家族のご健勝、洋上での安全航海・安全操業、そして大漁をご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

「海員だより」